



ADRC Highlights

Vol.61

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News

December 16, 2002

➤ 赤十字・赤新月社連盟(IFRC)アジア・太平洋総会で基調講演



11月24日から28日に、フィリピンのマニラで、赤十字・赤新月社連盟(IFRC)のアジア・太平洋総会が開催され、アジア防災センター所長の西川が「総合的な防災アプローチ」についての基調講演を行いました。

この会議は、中近東、アジア、南太平洋に亘る44カ国と欧米11カ国の赤十字・赤新月社と赤十字国際委員会(ICRC)が4年ごとに集まり、各国での赤十字活動、赤十字・赤新月社相互の協力について討議をするものであり、今回はHealth(HIV-AID問題を含む)、Population Movement(災害や紛争による避難民、難民、移民、出稼ぎ労働者、また人身売買問題も含む)、Disaster Managementの3項目が主要テーマとして取り上げられました。

4日間の討議の結果、向こう4年間の活動方針として、Manila Action Plan 2002が採択され、防災分野では、各赤十字・赤新月社間で防災活動の成功例のノウハウを共有すること、ボランティアをこれまで以上に防災活動に組み込んでいくこと、ドナーに対して災害援助のみならず幅広い防災活動への支援の重要性を周知すること等が述べられました。また今後UNAIDS、WHO、ILO等の国連専門機関、世界銀行やアジア開発銀行、アジア防災センター等と協力関係を続けることも宣言されました。

会議にはフィリピンのアロヨ大統領、赤十字・赤新月社常任委員長でもあるオランダのマルガリエト王女も出席し、ホスト役のフィリピン赤十字社による行き届いた準備もあって、フィリピンのマスコミにも大きく取り上げられ、成功裏に終わりました。次回のアジア・太平洋総会は、2006年に開催予定です。会議の詳細については、<http://www.aprc.net> をご覧ください。

➤ インド政府、UNDPインド共催「災害予防と軽減国際セミナー」の開催について

インド デリーにおいて、11月21日～23日の3日間、インド政府内務省、国連開発計画(UNDP)インドの共催で「国際セミナー～災害予防と軽減」が開催されました。



インド政府、州政府、研究機関、NGO、国際機関など150人を超える参加者の出席のもと、「コミュニティベースの災害予防」、「総合的な予報・警報システム」などについて活発な議論がなされました。アジア防災センターも、「脆弱性評価と情報システム」についてプレゼンテーションを行いました。インド国内および

南アジア地域での国連、政府、州政府、研究機関、NGOの連携や情報共有のため、非常に有意義な会議でした。(詳細は<http://www.undp.org.in/dpms.htm>)

また、同会議に先立ち、11月20日にデリーにおいてUNDPインド主催の「南アジアにおける体系的な災害インベントリーの構築」についての会議があり、南アジア地域のUNDPをはじめとする国際機関が集まり、効果的な災害情報の共有のあり方について、討議を行いました。

中南米での災害インベントリーの事例やアジア防災センターが国連 Relief Web、ベルギーのルーベンカトリック大学(CRED)などと進めるGLIDE(Global Identifier)などを活用しながら、一層の災害情報の共有化を図るため、引き続き関係機関が協力していくことが確認されました。

(詳細は<http://www.undp.org.in/dmweb/bsdi.htm>)

(主任研究員 吉村 文章)

➤ INSARAG アジア太平洋会合上海で開催

11月11-13日上海でINSARAG(国際搜索救助諮問グループ)アジア太平洋会合が開催されました。ADRCはオブザーバーとして参加を要請され、所長の西川がADRCの防災分野の人材育成活動について紹介しました。



INSARAGは、外国での災害援助にかかわる各国の搜索救助チームが、緊急時に相互の意思疎通が図れるよう、また、地震の現場で被災地に負担をかけないような一定のルールを相談する場として1991年に作られたものであり、国連人道問題調整事務所ジュネーブが事務局を行っています。

これは1988年12月のアルメニア地震(旧ソ連)の際に、欧米各国の搜索救助チームがここぞとばかりに被災地に殺到し、同じ場所を何度も搜索したり、自国から連れてきたマスコミへのPRを重視したり、被災地で残った数少ない建物を占拠し地元の救援活動を阻害したり、また、搜索救助チームを乗せた飛行機が地震被害で管制塔が麻痺した地元空港に強行着陸し駐機中の飛行機と衝突し多大な犠牲者を出したりといった苦い経験の反省にたって、組織されたものです。

数年前までは、この会合は欧米各国と日本(JICA 国際緊急援助隊)、オーストラリア、ニュージーランドの搜索救助チーム相互の情報交換の場という色彩が強かったのですが、ここ数年、シンガポール、韓国などアジア各国が海外の災害にも対応する専門チームを組織化してきたこと、また、1999年の台湾地震では日本をはじめアジア各国の搜索救助チームが活躍したことなどから、アジア太平洋会合が毎年開かれています。今回の会合は、都市搜索救助チームを新規に組織化した中国国家地震局がホスト役となり、会議2日目にはこのチームによる実地訓練が公開されました。

今回のINSARAGアジア太平洋会合は、日本の外務省とJICAがホスト役となり2003年11月13-15日神戸で開催予定です。

ご意見・ご要望等があれば
右記までご連絡ください。

編集・発行： Asian Disaster Reduction Center(アジア防災センター)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1 IHDビル3F

E-mail: editor@adrc.or.jp TEL: 078(230)0346 FAX: 078(230)0347

誌代・送料： 無料 / 毎月2回発行(予定)